

## 学校教育を効果的に進める学校施設・設備の改善 －安心・安全な環境づくりと教頭のかかわり－

### I はじめに

児童生徒が一日の大半を過ごす学校は、教育活動を行うための基本となる場所であり、学校施設・設備の改善は、教育活動の効果を高める上で極めて重要である。

日々の教育活動においては、子どもたちが巻き込まれる不慮の学校事故などもあとを絶たず、思いがけない箇所が落とし穴となる事態に遭遇することもある。子どもたちの安心や安全を確保し、学校教育を効果的に進める学校施設・設備の改善の課題には、教頭は勿論、教職員一人一人が適切な危機意識をもち、学校が組織体制を整えてその対応にあたるのが重要であると考える。さらには、PTAや地域、教育行政機関などとの積極的な連携も必要となる。

このような認識の下、テーマを「学校教育を効果的に進める学校施設・設備の改善」とし、本市における学校施設・設備に関する実態から課題を整理し、その課題解決に学校運営の側面から教頭としてどのようにかかわるか、また、学校間・保護者・行政がどのように連携し、かかわり合っていけばよいのかを探るために、本研究テーマを設定した。

### II 研究の概要

#### 1 研究のねらい

学校施設・設備の活用・保全について運営の側面から見直し、具体的な方策を考えることで、その改善を図り、効果的に学校教育が進められるようにする。

#### 2 研究内容

第八期の研究は、1年次にテーマにかかわる課題を探るため、まず、学校施設・設備に関する実態を把握することを目的として、アンケート調査を実施し、課題の洗い出しを行った。2年次には、その調査結果の分析から、3つの課題を設定し、各課題別研究グループを編成し、その課題解決の方策を探ってきた。そして、最終年度となる今年の研究では、それぞれの課題解決に教頭としてどのようにかかわるのかという視点を明確にしなが、課題別グループの研究課題を追求し、3年間の研究のまとめを行った。

#### (1) 施設・設備の活用・保全に関する取り組み〔課題①〕

学校運営上必要な施設・設備は多数あるが、すべてを各校で用意できるわけではない。昨年度、グループ所属校において、「有るものをどう活用しているか」「無い時にどうしているか」などの視点で、各校の校具等の現状や課題に関する調査研究を行った。また、その結果に基づき、施設・設備等を、「大型機器・機械」「プールの管理」「学校の施設・設備全般」と分類し、課題とその対応策について検討してきた。今年度は、その調査を全市の学校に広げて実施し、具体的な対応策として共有利用できるものは何か、各校で工夫できることは何か、そして行政に要望していくことは何かについて整理した。さらに、共有利用に向けた取り組みや行政等への働きかけの方策などについて検討した。

##### ① 共有利用に向けた取り組み

各校の現状を調査し、その結果から、校具や備品の一部を学校間、市や関係機関等で共有利用する仕組みを探った。さらに、その調査の結果を「所持状況リスト」としてまとめ、職務の遂行に役立てた。所持状況リストは、情報の共有という視点では、学校間の共有利用に大変有効であり、教頭相互のネットワークも広げることができた。関係機関等との連携や具体的なシステムづくりなどについては、今後の課題である。

##### ② 改善に向けて

各校の事例研究から、改善に向けては、①要望に対する実状を適切に伝えるため、詳しいデータや記録写真などの基礎資料を適切に整える必要がある ②繰り返し交渉を進めるなど、フットワークのよい働きかけが必要である ③共通課題は、各校が協力し、組織として働きかけることが有効であるなどの成果が確認された。

#### \*1 3つの課題：

〔課題①〕多様な学習内容や学習形態などに伴う学習環境の確保に対応する施設・整備の活用・保全に、どう対応していくか。

〔課題②〕住民にとって身近な公共施設として、他の施設との安全に対する連携や地域の防災拠点としての役割をどのように果たしていくか。

〔課題③〕児童生徒の学習及び生活のための空間として、十分な安全性を備えた安心感のある施設環境をいかに確保していくか。

## (2) 防災及び避難場所としての施設・設備に関する取り組み〔課題②〕

### ① 「避難所運営マニュアル」の作成と活用

本市は緊急災害時に、全小中学校の校庭が避難地に、また体育館が避難場所となっている。市防災会議が編集した『甲州市地域防災計画』(2007.3発行)には、災害予防計画、災害応急対策計画、災害復旧対策計画、避難場所一覧、救援物資集積所一覧、食料の備蓄状況などの細かい取り決めがある。そこで、この『甲州市地域防災計画』の内容をもとに、学校が避難場所となった場合を想定した「避難所運営マニュアル」をまとめた。今後は、この「避難所運営マニュアル」を各小中学校において、実態に応じた内容に修正し、学校の「防災安全計画」の充実と活用を図る。

### ② 「安全マップ」の作成と活用

避難所運営マニュアルが、緊急事態における学校の役割の視点であるのに対して、安全マップは通常時の安全確保として教頭が果たす役割は何かを見いだす必要から研究対象に取り上げた。

作成に当たっては、どのような情報を載せたらよいか、どのように活用して児童生徒の安全指導に役立てていくかなどについて検討した。「安全マップ」は、本市各小学校区単位で、一応の完成をみた。中学校は単独での作成はしていないが、小学校で作成した安全マップを活用する方向で検討している。また、今後は、児童生徒と一緒にマップづくりに参加するなど、児童生徒自身の危険回避能力を高めていく活動を工夫・実践していくことが重要である。

## (3) 学校事故に関する取り組み〔課題③〕

「安全・安心な施設環境の確保にどう取り組むか」という部会課題の解決のために、各校から、近年の学校事故に関する事例、専門家による遊具の点検結果、専門家による消火器の点検結果、安全点検表を持ち寄り、事例研究を行った。今年度は、学校事故防止策について、施設・設備の安全点検の在り方や予算運用の工夫などの視点から、収集した資料を検討した。

### ① 学校事故防止の取り組みから

学校事故防止に関する各校の事例研究を進めた。その結果、改善要求に向けては、児童生徒の安心・安全を第一に考えた優先順位付けを行うこと、日常点検をしっかりと行い、その資料を基礎資料として活用すること、必要に応じて地域住民や教育関係団体との協力を図りながら進めることなどが重要であることを確認した。

### ② 安全点検活動から

各学校で実施している安全点検について、点検内容や実施方法などを調査し、安全点検活動の改善を図ることとした。特に遊具の日常点検活動については、専門業者による遊具点検に同行し、点検箇所の確認及び点検方法について学ぶことが有効であることを確認した。また、遊具の安全点検内容として、児童の使い方の面からチェックするような点検活動の必要性から、遊具の使い方や運動時の留意事項などを含んだ点検項目を検討し、「安全指導点検表」としてまとめた。

## III まとめと課題

### 1 成果

- ・施設・設備の活用・保全に関する現状、対応策などの情報を共有し、校具等の所持状況リスト下の作成や限られた予算の運用方法の検討など、課題の解決策を探ることができた。
- ・避難所運営マニュアルと安全マップについて、本市各校の参考となるものをまとめることができた。
- ・施設・設備の設置基準、安全基準などについて、改めて学習する機会となった。また、実際の対処方法や工夫を出し合うことで、教頭としての職務の参考となる研究ができた。特に、安全点検については、児童生徒の行動のしかたに着目した安全指導点検表をまとめることができた。

### 2 課題

- ・学校の教育活動が円滑かつ効率的に行われ、教育活動の充実を図るために、学校がどう環境を整備していくのか、行政や保護者などにどう経営ビジョンを示しながら協力を得ていくのか、そのために教頭がやるべきことをいかに焦点化していくかなど、学校運営の側面からさらに研究を深めたい。
- ・地域防災への参画については、本研究で取り組んだような備えや準備をしていく必要性は高く、研究の意義を確認した。今後は、教職員の役割や行政との分担を検討するなど、作成したマニュアルを実効性のあるものにしていくこと、教頭としていかに教職員の防災意識をつくっていくのかなど、さらに研究を深めたい。
- ・学校事故等にかかわっては、学校の保健安全教育のどこに課題があるのかを明確にし、安全を確保する安全点検の在り方はどうあるべきか、施設・設備に関する財政的な要求はどうあるべきか、教頭としてどのように予算の効率的な運用に取り組むかなど、さらに研究を深めたい。

(課題別研究部長 加藤幸夫)